

日本と韓国のカトリック司教協議会は2017年11月に、平和声明「北東アジアの平和を願って」を発表しました。声明で、軍事によって安全と繁栄をはかることは恐ろしい不安を与え緊張を強める、核兵器による抑止は効果がない、対話による相互の信頼を構築するように努めるべきだ、と訴えました。

カトリック前東京大司教

岡田 武夫さん

9条を変えない共同

うなっています。

同じ過ちに陥る

換を進めてきました。最初は日本2人、韓国3人の司教で始まった会談は、今はほぼ全員の司教（日本は20人以上、韓国は30人以上）が賛同して声明を出しました。

背景には現在の北東アジアでの緊張の高まりがありま

す。北朝鮮の問題について、安倍首相は対話を否定し、圧力ばかり強調します。さらに安倍政権は、「アメリカファースト」と自国の利益を最優先とするトランプ米大統領に追随する態度をとっています。その姿勢が北東アジアの緊張を高める要因となっています。

その中で安倍首相は、自衛隊を憲法9条に明記し、3項を書き加えると言っています。

日本は先の戦争で「自存、自衛」を理由に中国に侵略し、住民を虐殺しました。アメリカも、ベトナム戦争やアフガニスタン、イラクとの戦争で、自国の安全のためと言って戦争を行いました。憲法を変えれば、日本がアメリカに追随して戦争に参加し、かつてと同じ過ちに陥るようになる危険があります。

示すことが必要です。さらに進んで、日本は世界中にその考えを普及する使命をもっているはずで、自衛隊を明記することは、反対の意思表示になります。

カトリック教会も「正当防衛」理論に基づき、正義の「戦争」を肯定した時期もありました。しかし核戦争の危険のある現在は、「正当防衛の戦争はありえない」と考えるよ

聞き手・写真 若林明

許すな 安倍9条 改憲



おかだ・たけお 1941年千葉県生まれ。東京大学法学部卒。2000～17年東京教区大司教。